



HOPPY team TSUCHIYA

レースレポート

2026 AUTOBACS SUPER GT Round4 FUJI GT 300km RACE

日時	2026年8月1日予選、2日決勝	■車両名	HOPPY Schatz GR Supra GT
■場所	富士スピードウェイ（静岡県）	■カーNo.	25
■監督	土屋 武士	■ドライバー	松井 孝允／洞地 遼大
■チーム	HOPPY team TSUCHIYA	■リザルト	予選 Q1 B組14位/Q2進出ならず 決勝 20位

約 3 カ月ぶりの富士

掴みかけた“上昇気流”に乗れるか、灼熱の戦いが幕を開ける

第 3 戦セパンが中東の情勢不安により中止となり、第 2 戦富士から約 3 カ月という長いインターバルを経て迎えた第 4 戦。舞台は再び富士スピードウェイだ。前戦では終盤にかけて中団上位と遜色ないペースを見せ、手応えも掴んだホビ子。ポイント獲得、そしてさらなる上位進出を目指し、チームは再び富士の地に立った。



8 月 1 日（土）フリー走行、公式予選

夏真っ盛りの富士スピードウェイ。太陽の光とアスファルトからの照り返しで汗が吹き出してくる。時折吹き抜ける優しい風に心は幾分救われる。日曜日の天気予報が定まらない中、土曜日は完全ドライコンディションでの走行となった。

▼フリー走行＜GT300 19 位 1 分 39 秒 166＞

まずは松井選手がコースイン。少しずつラップタイムを上げていく。4 周目 1 分 40 秒を切ってくる。5 周目、さらにタイムアップして 1 分 39 秒 166 をマーク。直線スピードは 270km/h。悪くない滑り出し。次の週でドライバーチェンジして洞地選手へ交代。サーキットに来る前まで少し体調を崩していたということで、金曜日にはやや辛そうに見えたが、1 日経ってだいぶ回復したようだ。その洞地選手が走行を開始。1 分 40 秒台をコンスタントに記録。1 分 40 秒 139 まで縮める。その後再び松井選手に交代し、セットアップを少しずつ変えながら走行を続ける。31 周目に松井選手から洞地選手にドライバーを交代すると、ニュータイヤを装着してコースイン。35 周目に 1 分 39 秒 616 までタイムアップを果たしてセッション終了。結局、松井選手が序盤で記録した 1 分 39 秒 166 がベスト。フリー走行は 19 位。Q1 は AB 各組上位 9 台が通過となる。Q1 突破のボーダーラインだ。

▼予選 Q1:松井孝允 B 組 14 位 1 分 38 秒 337 (Q2 進出ならず)



フリー走行終了後、両ドライバーと武士監督の会話の様子を見る限り、表情は険しいわけではないが、かといって明るいわけでもない。予選セッション開始ギリギリまでリアの空力周りなどに細かな調整を加えて Q1 に臨む。25 号車は B 組。まずは A 組の走行が始まる。A 組最後の 9 位で通過したのは JLOC の 87 号車ランボルギーニ、タイムは 1 分 38 秒 050。このあたりが突破の目安になりそう。Q1 の担当は松井選手。フリー走行のタイム的には際どいところだが、良いアタックラップが取れば、と期待がかかる。B 組のマシンが一斉にコースイン。各車入念にタイヤを温めていく。どのチームも

なかなかタイムを上げてこない。いよいよ残り時間的にラスト 1 周となる。全車一斉にアタックへ。上位勢が 1 分 37 秒台を次々に叩き出していく。我々がホピ子もタイムアタック。ホームストレートに帰ってくる。タイムは…、1 分 38 秒 337 で B 組 14 位。なんと B 組は 14 台中 12 位までが 37 秒台というハイレベルな戦い。ホピ子のタイムも A 組なら 10 位相当となるハイレベルな戦いとなった。結果決勝のグリッドは 28 番に決まった。

ただ、武士監督も松井選手も一発の速さに課題が残ったことは認めつつ「ロングランの感触は悪くなかった」と話し、決勝での追い上げを誓った。

8 月 2 日（日）決勝レース

▼決勝<GT300 20 位>

数日前から気象予報アプリでは午後1傘マークが付いていた日曜日。天気はどうなっていくのか気になりながらも 1 日が始まる。

厳しい夏の陽射しが降り注ぐ中、恒例のピットワーク。熱心なファンの皆さんが暑さに負けずにピットを訪れてくれる。ポストカードを渡す時に「応援してます！」と声をかけて頂くとき、有り難さを改めて感じる。

第 4 戦は、第 2 戦と同じ富士だが、レースは前戦より短い 300km レースだ。灼熱の中スタートのセレモニーが始まる。レースウィークの中でも 1、2 を争う華やかな時間だ。しかし、そんな最中、急に大粒の雨が降り出す。

あっという間にマシンや路面を濡らしていった。いつまで降るのか、タイヤは…と俄かに慌たしくなるが、武士監督はニヤリと笑って「面白くなってきた」と発した。決勝でホピ子が大幅ジャンプアップを果たすにはプラス材料ということだ。セレモニーも終わいいよいよスタートの時間が近づいてくる。この頃には雨は上がり強い陽射しが戻ってくる。しかし路面は濡れたままだ。おそらくどんどん乾いていくであろう、難しい状況。するとピットのテレビモニターには一度履いたレインタイヤからスリックに戻すチームの映像が流れる。25 号車もスリックに戻してのスタートという情報が入る。その直後にセーフティカースタートというアナウンスがあり、午後 1 時半、レースはセーフティカーの先導でスタート。みるみるうちに路面は乾いていく。セーフティカーランは 4 周で終了し、いよいよレースがスタート。各車がホームストレートを駆け抜ける。中団で一台のマシンが突然宙に舞い上がる。激しいクラッシュが発生した。即座に赤旗、レース中断となる。GT500 の 64 号車が大破するもドライバーのフラグ選手は無事が確認され、ピットのスタッフも皆胸を撫で下ろす。

ショッキングなシーンで幕を開けた第 4 戦だがコース上の処理なども終わり、レースは再びスタート。10 周目からの再開となる。松井選手は 1 分 40 秒台の安定したタイムを刻んでいく。中団勢の中で遜色のないタイムだ。レースは 20 周目くらいから徐々に動きが出始める。続々とマシンがピットに入っていく。その中で最初のステントを長めにとった 25 号車は一時的に 9 位にまでポジションを上げる。33 周目についにピットイン。ドライバーチェンジと給油、そしてタイヤ交換。ここは左側の前後 2 輪だけ交換という作戦に出る武士監督。わずかだが、ピット作業の時間を短縮して洞地選手をコースへ送り出す。コースへ戻ってすぐタイヤの温度が



上がる前に何台かにかわされ 25 位。ここから洞地選手がわずかず前との差を詰めながら走行。コース上でのオーバーテイクを見せるなど追上げていき、54 周目には 20 位へポジションアップを果たす。そのまま 61 周を走り切り 20 位でチェッカーを受けた。決勝は 8 つポジションを上げてのフィニッシュとなった。

決勝での二人のドライバーの力強い走り、そして戦略を確実に遂行したチームスタッフの力での大幅ポジションアップだった。着実にマシンは進歩している。それだけに「予選の順位が

もう少し上だったら」という悔しさがチームを包んだ。

次の戦いは鈴鹿。マシンの仕上がりがより求められるサーキットだ。それだけに、インターバルは短いがさらなるポテンシャルアップを目指して武士監督以下、チームは歩みを進めていく。

▽土屋武士監督、松井孝允選手、洞地遼大選手の決勝レース後のコメントはこちらをご覧ください。

土屋監督 <https://youtube.com/shorts/nFQYIDSWbyo>

松井選手 https://youtube.com/shorts/FaugB_0Q84U

洞地選手 <https://youtube.com/shorts/5wTiFGeC1UU>

◎つちやエンジニアリングの YouTube チャンネル「つちやエンジニアリング_sub_ch」

広報・豊原が運営する YouTube チャンネル INFINITY MOMENT でも随時 HOPPY team TSUCHIYA の戦いを追っていく予定です。

こちらも是非、チャンネル登録のほど、よろしくお願いいたします。

URL: https://www.youtube.com/@tsuchiya_25



つちやエンジニアリング_sub_ch

レース搬入日の直前情報、レースの見どころ情報、
予選後、決勝後の監督・ドライバーのコメントなどはこちらです。

URL: <https://www.youtube.com/@infinitymoment-tv>



INFINITY MOMENT

特集動画や武士監督のロングインタビューなどはこちらです。

【問い合わせ先】

つちやエンジニアリング合同会社

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

担当： 土屋・豊原